



事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
 会長：中川博夫 副会長：唐澤千明 幹事：池上幸平

 <p>世界へのプレゼントになろう</p>	<p>2015-2016 国際ロータリーのテーマ 世界へのプレゼントになろう Be a gift to the world</p>	<p>2015-2016 RI会長 K.R.“ラビ”ラビンドラン スリランカ</p>	
<p>第1326回 例会 平成27年9月29日(火)</p>			

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 伊那中央ロータリー讃歌 池田幸平ソングリーダー

■ 会長談話 中川博夫会長



ハブ空港のハブとは路線や航路が集中する場所のことなのですが、ハブメディアという言葉があります。色々な方面への取材により集められた有用な情報を、必要とする人に届ける拠点とでもいえる良いのでしょうか？

これを担っているのが新聞社です。テレビ、インターネットなど様々なメディアが新聞情報を二次的に使用しています。なぜかという、様々な当事者への取材を通して裏づけを取った記事を、デスクと呼ばれる複数の編集者が複眼的に判断して掲載するかどうかの判断を下すので、記事についての信用度が高いからです。たまに、抜け駆け、功名心、勝手な思い込みにより捏造した記事だと、信頼を裏切る行為として世間から容赦ないバッシングを受けます。インターネットだと、新聞社からの配信以外のものには野次馬気分で見ているので、誤報でも大目に見てくれます。

経団連の経済広報センターが「情報源に関する意識・実態調査」をしました。但し、調査方法がインターネットによる回答選択方式および自由記述方式だったことも配慮して聞いてください。

信頼度では新聞57%、テレビ23%、インターネット13%でした。情報の正確さでも新聞が56%、テレビ25%、ネット16%。このことから伺えるように、新聞に対して多くの人が信頼を寄せていることがわかります。

ちなみに、社会の動きを知るための情報源ではテレビ84%、新聞82%、ネット79%とほぼ同数でした。経済についての情報収集は新聞が78%、テレビ72%。速報性も重要な要素の事件・事故は、テレビ85%、新聞66%。個々に対応しなくてはならない趣味では、ネットが75%で、新聞は26%でした。

政治社会の動き、経済の動き、教養・文化、地域、地元情報などの情報収集には、新聞が最も利用される一方、事件・事故、スポーツ・芸能では、テレビが最も利用されています。趣味の情報収集では、雑誌・インターネットの利用が高くなっています。

それでは、もしも新聞記者がいなくなったら世の中はどのようなのでしょうか？ これはアメリカの一地方で実際にあった話です。リーマンショックで新聞の広告収入が半減。新聞社はページ数や記者を減らし、賃金も下げましたが、212紙が休刊に追い込まれました。取材空白域ができた街では、役所に記者が来なくなると、市の行政官は500万円だった自分の年収を十数年かけて6400万円まで上げま

した。警察署長の報酬も引き上げるなど、幹部や市議も抱きこんでいました。

地元紙が姿を消したところでは、自治体選挙で候補者が減り、投票率が低下。現職の実績、街の実情、課題がまったく報じられなければ、有権者は判断材料を失うので興味をなくし、選挙に行かなくなるからでした。

ニュースの鉱石を掘り出しているのは新聞です。テレビは新聞の掘った鉱石を目立つように加工し周知させるのは巧みなのですが、自前ではあまり掘りません。ネットは新聞やテレビが報じたニュースを高速ですくって世界へ広める力は抜群ですが、坑内にもぐることはしません。新聞記者がコツコツと採掘する作業を止めたら、ニュースは埋もれたままで終わります。

■ ニコニコボックス

- ◆中川博夫 すっかり秋ですね。
- ◆池上幸平 RYLA in INAの会議に行ってきました。途中から一人ぼっちでチョットさみしい思いをしましたが、素晴らしい会議だったと思います。
- ◆松田靖宏 初めてのSAAと卓話を務めさせていただきます。盆と正月が同時に来た様なものですが、精一杯務めますので宜しくお願い致します。
- ◆矢島宏 2020年東京オリンピック追加種目選定の5競技に、ソフトボールが野球と共に選ばれIOCに提案する事に決まりました。ソフトボールをやる子供たちが増えればいいなあ～
- ◆唐澤稔 今日、長男よりメール。4人目が出来たらいい。人口増に寄与しています。残念ながら千葉です。

■ 幹事報告 池上幸平幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告

・9月18日（金）上伊那グループ次期ガバナー補佐候補者推薦委員会の報告 馬場秀則パストガバナー補佐兼子展世パストガバナー補佐と共に出席してきました。
2016-2017年度ガバナー補佐に、辰野RCの垣内章雄氏が推薦され、満場一致で承認されました。

・9/26（土）～9/27（日）RYLAの報告 大谷智鶴青少年奉仕副委員長



第27回RYLA in INA

- ・期日 平成27年9月26日（土）～27日（日）2日間
- ・会場 伊那プリンスホテル
- ・ホスト 伊那ロータリークラブ

●1日目 開講式

13:10 基調講演 演題「未来を創る若者たちへ」
講師 塚原美樹氏

14:35 セミナー 講師 塚原美樹氏

15:45 ワールドカフェ

テーマ①「未来の日本人」 テーマ②「未来の日本のために若者ができること」

18:55 講師講評 塚原美樹氏

19:20 懇親会

●2日目

9:15 パネルディスカッション

パネリスト～伊那西IAC：クラブ活動の発表（加藤クラブ長・大口副クラブ長）

10:25 全体会議～グループ発表

11:30 閉講式

・9/28（月）伊那西高校新体操部優勝記念発表会の報告 中川博夫会長



9月28日、伊那市民体育館メインアリーナにて、高校総体新体操競技会女子団体・種目別個人優勝記念演技発表会、全国高校総合文化祭写真部門最優秀賞（文部科学大臣賞）受賞記念作品展示会に招待され、行ってきました。

当日は、伊那西高全生徒、PTAをはじめ多くの方々が参集。NHK合唱コンクール金賞に輝いた合唱部の歌声とシンクロナイズした新体操部の演技は、躍動する青春を感じ心打たれました。

橋爪みずず先生の「生徒一人々々の個性を伸ばしオンリーワンになるように指導すれば生徒が輝き、やればできるという希望を持たせ続けることができる」という趣旨の挨拶にも感動しました。

■ 出席報告

会員数34名 出席免除会員7名 長欠会員2名 本日出席者19名 事前メイク1名
出席率68.96% 前回出席率 修正なし

■ 会員卓話

松田靖宏会員



日本のプロ野球統一球と、アメリカメジャーリーグ公式球を回覧いたしますので、ボールの大きさ、手触り、縫い目の高さなどご確認ください。

いよいよ昨日、野球・ソフトボールがオリンピックの追加種目候補に決まり、2020年東京オリンピック正式種目になる可能性が高くなってきました。正式決定は、来年の8月との事ですが、日本の活躍を思うと、今からワクワクいたします。

改めて、自己紹介させていただきますが、弊社は硬式野球ボールを中心に硬式野球用品の製造・販売をしており、今年で創業68年になります。

今日は、皆さんが御存じの野球、ベースボールについて、その中でも硬式ボールを中心にお話をしてみたいと思います。

まず、ベースボールの歴史についてですが、発祥は以外にもアメリカでは無く、イギリスの「ラウンダース」というボールとバットを使った遊びが起源といわれています。それは、14世紀から行われており、1744年に発刊された本では、この「ラウンダース」の事を「ベースボール」と呼んでいます。

その後、アメリカでバットとボールを使った遊びが爆発的に盛んになり、徐々に成熟していき、1845年、ニューヨークの銀行員が仲間たちとクラブチームを作るにあたって、初めてベースボールの規則を成文化しました。このとき、塁間(ベースとベースの間隔)を90フィート(1²は0.3048²)とするダイヤモンドが生まれたのですが、今日に至るまで変更が加えられておりません。この絶妙な発明によって、ベースボールは遊びからスポーツとして形作られていく事となります。

特に、南北戦争が終結した1860年後半になると一気にベースボール熱が高まる事となり、今や、遊戯性とスポーツ性の両方を兼ねそなえたベースボールゲームとして我々を大いに楽しませてくれています。

戦争の話が出ましたので、余談ですが、ダッグアウト(選手・監督の控え席)は何故グラウンドより低く作られているかご存知でしょうか？ それは、戦争の時に作られた塹壕(待避壕)の名残といわれています。南北戦争時代には、南と北のチームで試合が行われたという記録もあるそうです。

変わって、日本での野球の発展についてどうかといいますと、明治4年(1871年)に、アメリカから来日したホーレス・ウィルソンという現在の東京大学の教師が野球を教えたのが始めて、徐々に周りの大学に広まっていき、それから7年後には、もう社会人野球が始まっています。



ベースボールを野球と訳したのは、第一高等中学校(現 東京大学教養学部)ベースボール部に所属し内野手として活躍していた中馬 庚(ちゅうま かのえ)が明治27年(1894年)に部史を書くにあたって表題を「野球部史」としたのが初めてとされています。

同じベースボール部に所属していた正岡子規が名付け親とよく言われますが(私もその様に信じていました)、野球と訳される5年前に子規はペンネームで「野球」と書いて(のボール)本名のぼる(升)にかけて使っていた事が原因のようです。子規は相当野球が好きで、打者・走者・直球・死球・飛球などの今でも使われている訳語を作っています。

その後、明治29年(1896年)に第一高等中学校が横浜外国人チームとの試合に29対4という大差で勝利し、新聞などで大きく報道され、野球人気が全国に広まるきっかけとなりました。

大正4年(1915年)に始まった夏の甲子園大会も今年で100周年を迎え、昭和11年(1936年)に誕生した日本プロ野球も、最近では女性の応援が随分と目立つ様になり大いに盛り上がりを見せております。

また、高校・大学の女子硬式野球部も毎年創部が相次ぎ、女性が硬式野球をする環境も随分と整ってきました。高校の女子硬式野球連盟の方にお聞きしたのですが、夏の甲子園大会での決勝が行われる日、午前中女子決勝、午後を男子の決勝にしたいとおっしゃっていました。今の女性の活躍を見ますと、その夢の実現もそう遠くは無い様に思います。

ここで話を白球、硬式野球ボールに移したいと思います。

以前は殆ど話題に登る事は無かったのですが、プロ野球での飛ぶ飛ばない問題で一躍脚光を浴びる事となりました。

そもそも、野球規則の中でボールの規格というのはそれ程厳密に決められている訳では無く、規則をそのまま読みますが、(公認野球規則1.09)

「ボールはコルク、ゴムまたはこれに類する材料の小さい芯に糸を巻きつけ、白色の馬革または牛革2片でこれを包み、頑丈に縫い合わせて作る。重量は5匁ないし5 1/4匁(141.7g~148.8g)、周囲は9匁ないし9 1/4匁(22.9g~23.5g)とする。注：わが国では牛皮のものをを用いる。」と定められているのみです。

よくボールの大きさについて質問を受ける事がありますが、小学生からプロ野球まで全く同じ大きさと重さです。

規格については、日本では野球規則以外に決められている部分が有ります。

それは、バウンド、反発です。

公式球としての野球ボールは、反発性について、以前から一定の高さから大理石の上に自然落下させて跳ね返りが規格以内なら合格とするという規定がありました。

プロ野球の場合は、さらに厳格な反発度テストを行っています。

それは、日本車輛検査協会に作った計測器で、機械から秒速75匁(時速270km)で打ち出したボールを鉄板にぶつけ、その反発係数が0.4134~0.4374の範囲に入ったボールを合格としました。例えば、時速100匁で打ち出したボールが時速50匁で戻ってきたとすると反発係数は0.5となります。

この規格が、プロ野球統一球では0.4134~0.4234(少し上限が低くなりました)となり、昨年の反省(知らない間に)から、今年は、0.4134(最低値)を目標値とするに改め(規格が曖昧になった)上下限への言及を撤廃いたしました。規格の最低値を目標としたことにより、今年のプロ野球はホームランの数が今のところ少なくなっています。

もしかしたら、来年はまた知らない間に飛ぶボールに変更なんて事もあるかもしれません。

そもそも低反発球への変更のきっかけとなったのが、2004年の中日ドラゴンズ優勝にあります。

落合監督率いる中日は、対戦する相手によって使用するボールメーカーを替えていました。打力の強いチームとの対戦には飛ばないボールを、それ以外は飛ぶボールを使いチームを優勝へと導いたのです。

また、飛ぶボールの存在が日本プロ野球ではホームランを大量生産しましたが、結果としてバッティング技術の低下を招き、国際試合では全くと言っていい程ホームランが打てない事となりました。

その様な反省から、2007年全てのボールが低反発球への規格変更となった訳です。

試合に使うボールは、ホームチームが用意すると決められていますが、以前は、守りの時に自分の用意したボールを使うという事が当たり前だったようです。今でも、日米親善野球などでは、日本が守備の時は日本のプロ野球の統一球を使い、アメリカが守備の時にはメジャー公式球が使われる事があります。これは、ピッチャーが普段から慣れているボールを使用できる様にした配慮からです。

かなり古い話ですが、ボールを冷蔵庫などで冷やしておいて飛びにくくし、相手の打力を落とすなどという戦法も有ったようです。

よくメジャーリーグへ移籍した日本のピッチャーが日米のボールの違いについて言及しているのを聞くことがあると思いますが、メジャーのボールは中南米のコスタリカという小さな国で作っています。

日本のボールは、統一球になった時から日本製で無く中国製になったのですが、確かに日本のボールに使用している牛革は手によく馴染み、指先の感覚に優れた日本人に合っていると思います。この白なめしと言

われる革は兵庫県の姫路市で製造(現在は中国に製造移転)されており、千年以上前に大陸から製法が伝えられた牛皮なめし革です。戦国時代には、しなやかで強靱な白なめし革を利用した武具や馬具が作られたという長年の歴史が作り出した優れた革です。

また、日米の革の違いは、肉の好みの違いでもあります。日本人は、霜降りの柔らかい肉を好みますが、アメリカ人は噛み応えのある硬い肉を好みます。ちなみに、肉の美味しい部位と良い革の取れる部分は不思議と一致しています。ロース肉の部分の革が試合球用の革に使われています。

参考に回覧しておりますボールの重さですが、重さはどちらも約147gと149g、円周は、日本のボールが約23cm、メジャーのボールは約23.5cmで何れも規定内で殆ど差は有りませんが、縫い目の高さと握った時の革の感触はかなり違う様です。

他にボールの特徴として縫い目が有ります。

ボールの縫い目の数は、煩惱と同じ108というのはかなり知られておりますが、当初はバラバラで、中には130のボールもあったようです。

明治初期、アメリカから持ち帰ったボールを野球愛好家が新橋の靴屋さんに作ってもらった時は116であったという記録が残っております。

昭和23年(1948年)にアメリカ製のボールが108になり、日本の製造メーカーもこの年から徐々に108に変わっていきましたが、昭和38年(1963年)、当時のプロ野球の内村コミッショナーが、「日本のボールも108で行く」と発表したことにより各メーカーとも108に統一しました。

縫糸に関しては、各社色々な素材を使用していたのですが、2007年に低反発球の規定として綿の糸を使用する事と太さ(16番10本撚り)が統一されました。

以上、大雑把にお話しさせていただきましたが、皆さんも、会社、ご自宅へ戻られましたら、是非、野球の素晴らしさを熱く語ってください。

本日は、ありがとう御座いました。

■ 臨時理事会報告

池上幸平幹事

1. 伊那西高校「記念発表会」への対応について
2. その他

■ 点 鐘

13:30

次回例会

10月6日(火) 点鐘 12:30 場所 海老屋料理店

・クラブフォーラム(国際奉仕)

・指名委員委嘱